

大会名 Competition	秋田国体記念 第20回能代カップ 高校選抜バスケットボール大会
NO. M-205	Year Month Day Time 2007 年 5 月 5 日 9 : 30
場 所 Place	能代市総合体育館



チーム A		チーム B										
聖和学園高	<table border="1"> <tr><td>18 1st</td><td>16</td></tr> <tr><td>16 2nd</td><td>20</td></tr> <tr><td>24 3rd</td><td>10</td></tr> <tr><td>18 4th</td><td>20</td></tr> <tr><td colspan="2">OT</td></tr> </table>	18 1st	16	16 2nd	20	24 3rd	10	18 4th	20	OT		昭和学院高
18 1st	16											
16 2nd	20											
24 3rd	10											
18 4th	20											
OT												
76		66										
○		●										

主審:Referee
上田 信彦 (岩手)

副審:Umpire
信太 悦美 (秋田)

テーブル・オフィシャルズ:Table officials
能代商業 (女子)

No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3 P	2 P	FT	F	No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3 P	2 P	FT	F
4	×	佐々木	ゆ み CAP	19	1	8	0	2	4	×	久野	絢 子 CAP	2	0	1	0	2
5	×	永野	由香里	20	0	10	0	3	5	×	小林	礼 奈	9	1	3	0	2
6	×	板橋	友 海	4	0	1	2	0	6		渋谷	彩	-	-	-	-	-
7	/	平間	美 優	4	0	2	0	2	7	/	菅田	有 子	14	1	4	3	0
8	×	佐藤	恵 美	6	0	3	0	3	8	/	元山	夏 菜	0	0	0	0	0
9	/	佐藤	友 美	0	0	0	0	1	9	×	北館	美 保	11	0	4	3	1
10	×	高橋	智 美	14	2	3	2	3	10	×	大河原	晶 子	19	1	8	0	1
11		関根	美 穂	-	-	-	-	-	11	/	斉藤	玲 奈	2	0	1	0	0
12		内海	絵美香	-	-	-	-	-	12	×	松本貴和	レシエノ	0	0	0	0	0
13	/	早坂	妙 江	2	0	1	0	0	13	/	広野	由香里	4	0	2	0	1
14	/	宮崎	あかね	0	0	0	0	0	14	/	眞茅	昂衣子	4	0	1	2	2
15	/	酒井	葉 月	2	0	0	2	0	15		森戸	理 紗	-	-	-	-	-
16	/	佐々	満理奈	2	0	0	2	2	16		斉藤	由 果	-	-	-	-	-
17	/	藤原	沙也歌	3	0	1	1	3	17	/	長尾	彩 美	1	0	0	1	0
18		安倍	笑 子	-	-	-	-	-	18		馬場	夏 美	-	-	-	-	-
コーチ		小野	安 壮						コーチ		鈴木	親 光					
Aコーチ		安野	努						Aコーチ		野村	由 季					
合 計				76	3	29	9	19	合 計				66	3	24	9	9

※×:スター /:交代選手 PTS:ポイント 3P:3P* イントシュート 2P:2P* イントシュート FT:フリースロー F:ファウル

1 Q、聖和はオールコートマンツーマン、昭和はハーフマンツーマンでスタート。両者硬さが見られ、イージーミスが目立つ中、聖和は激しいプレス、昭和は小刻みなメンバーチェンジでリズムを掴もうとする。お互い厳しい守りに合い、決定打に欠ける。終盤までシーソーゲームが続くが、終了間際に聖和#17藤原がスティールからレイアップを決め、18-16聖和リードで終了。

2 Q、昭和は、#10大河原のインサイド、#9北館の小柄ながらもスピードに乗ったドライブを中心に得点を重ね逆転に成功。一方の聖和は、速攻時のパスミスが目立ち、5分間で2得点と苦しい状況。そこで、外角のメンバーを替え立て直しを図る。すると、#4佐々木を中心とした速い展開から得点を重ね、同点にする。しかし、昭和は残り0.1秒、相手のファウルを誘い、2本のフリースローを決め、34-36の昭和リードで折り返した。

3 Q、開始早々聖和は前半にも厳しさを増したフルコートマンツーマンで相手のミスを誘う。また、スクリーンを有効に活用した内角、外角とバランスよく得点に結びつける。一方の昭和は、この状況をメンバーチェンジで打開したいところだが、攻守の切り替えがうまくいかない。タイムアウト後の残り3:35から聖和が11得点し、58-46と点差を2ケタにして4 Qへ。

4 Q、以前ペースは聖和。#5永野のミドル、#10高橋の3 Pで加点する。残り7:36リードする聖和が早めのタイムを請求。直後、激しいプレスを展開し勝負を決めようとする。昭和は、#10大河原のポスト、#7菅田の3 Pで追い上げを図るが、激しい聖和ディフェンスの前に最後までリズムを掴むことができなかった。聖和は残り4分過ぎにメンバーを総入れ替えするも3 Qの貯金を守りきり、76-66で勝利した。

聖和の激しいディフェンスと、徹底したボックスアウト、ルーズボールへの姿勢が光ったゲームであった。昭和は守りから攻めへの切り替えを速くし、フロントコートにボールを運ぶゲームを期待したい。